

渡辺ハウジングOBの皆様と
来客のお客様にお届けする

やすらぎ通信

渡辺ハウジング
03-3959-8743



暖かかったり、寒かったりを繰り返しながらも、日差しには春のぬくもりを感じられるようになりました。

そろそろ桜もほころぶ季節と

なり、こころ浮き立つ頃ですが、今年もコロナの感染拡大を心配しつつのお花見になりそうで残念です。

いつになったら・・・と、つつい考えてしまいますが、前を向いていきましょう！

季節の変わり目、くれぐれもご自愛ください。



家を建てる段取り (17)

引き続き、家を建てる際に大切な段取りについて書かせていただきます。どんな段階を経て家が完成するのかを楽しみながらご理解いただければ幸いです。

【工事が始まったら】

さあ、いよいよ工事開始。

これまで設計図や設備選び、パースなどでイメージしていた家の工事が始まります。ご近所への挨拶もすませ、一段落の頃かもしれません。



地鎮祭や上棟式を予定しているのなら、あらかじめ住宅会社に伝えておくと、日程も決めてくれてスムーズに進みます。

地鎮祭は、土木工事や建築工事を始める前に、その土地を守る氏神様に、土地を利用させてもらう許可を得て、工事が無事に終わるよう神主を招いて安全祈願をする儀式です。

整地後、着工前の吉日に行われるのが一般的です。

上棟式は、工事を進められたことへの感謝と、完成までの無事を祈願する儀式で、柱や梁などが組みあがり、家の骨格ができた時に行います。

上棟式は、建前（たてまえ）ともいわれます。

いずれも安全を祈願して行うもので、神主さんや職人、工事関係者にご祝儀やお酒を振る舞うこともあるようですが、地域によって異なりますので、住宅会社に聞いてみるとよいでしょう。

吉日といっても大安に限らず、工事を始めるのに吉日とされている「建築吉日（たつ・みつ・たいら・ひらく等十二直という暦による吉日）」があります。

施工側のいう「日が良い日」は、十二直ではなく一般的な暦「六曜」での日柄だと思えます。



どちらを重視するかには決まりがありません。

ただ、建築業界では「三隣亡（さんりんぼう）」は、「三軒両隣みな滅ぶ」といわれ恐れられ、大工でもこの日の上棟は避けたがる人が多いです。

大安でも、三隣亡ならやめておいた方がいいかもしれませんね。

次号に続く

「社日（しゃにち）」

社日は、その土地の守護神である「産土神（うぶすながみ）」を祀る日で、年に2回、春と秋に訪れます。春の社日を春社、秋の社日は秋社とも呼び、今年はそれぞれ3月16日、9月22日に行われます。春は種まきの時期でもあるため、五穀を供えて豊作を祈り、秋は稲穂を供え収穫に感謝していたのだそうです。

このように農業に携わる人々にとって大切な節目の日となっていたのです。

ちなみに社日のルーツは、中国にあります。

また？と思うかもしれませんが・・・そうなのです。

古代中国では土の神をまつる祝日ですが、この風習が日本に古くから伝わる地神信仰や田の神信仰と融合し、根付いたといわれています。



生まれてきたこと



私は、右手に障害があります。

兄弟が二人いますが、彼らは、生まれた時から幼児期の可愛い写真がたくさんあるのに、私の写真はありませんでした。

どうして？

不思議に感じ、ある時、思い切って両親にその理由を聞くと、

「ごめんね。

カメラが壊れていて撮れなかったの」と、言っていました。



物心がついた頃から、私は自分の障害について認識し始め、成長と共に他人との違いに対する劣等感や、自分が生まれてきたことの悩み、そして最終的には両親への恨み、へとつながっていきました。

小学生の頃は、「この右手は20歳くらいまでには治るのかな？」などと両親に聞いていたりしたのですが、年齢を重ねるうち、

「何で俺だけ右手が使えないの？ 何で俺を生んだの？」と、両親からしてみれば答えようのない辛い言葉を投げかけたことを覚えています。

私は大学の卒業を間近に控え、両親の私を育ててきた苦悩などを、今なら多少なりとも知ることがができます。

障害を持って生まれてきた我が子に、衝撃を受け、産後しばらくの間、自暴自棄になってしまったという母親と、その母親を立ち直らすために母親を殴った父親の悲しみ。

写真が少ないのも、素直に私に愛情を注ぐことができなかった、そんな背景があったからなのです。

でも、私の記憶に残る両親は、私にたくさんの愛情を注いでくれました。

幼い頃、寝る時はいつも父が右手を握ってくれたことは忘れられません。

「お前の手が早く治るように・・・」

この父の願いは叶わないこと、今ではわかりませんが、その頃は本当に叶うことを期待していました。

これからも、一生付き合っていかなければならない障害ですが、私がこの世に生を受けたこと、両親が愛情をもって、時には優しく、時には厳しく大切に育ててくれたことは忘れません。絶対に恩返しをします。

今春から、就職し社会人としてスタートします。一生懸命働いて必ず親孝行します。

だから、お父さん、お母さん、

長生きしてください！



これは知人から聞いたお話です。

障害に負けず立派に成長した姿に、ご両親の感慨もひとしおのことと思います。頑張ってください！！

「編集後記」

暑さ寒さも彼岸まで、という言葉通り、すっかり春めいてまいりました。

そろそろ各地から桜便りも届き、四季を通じいちばん華やぐ季節を迎えます。こころ和らぐこんな時期、世界に目を向けると大変なことが起きています。

ロシア対ウクライナ戦。

ロシア軍の無差別攻撃の中、逃げ惑う人たちの叫び声や涙。映像を通じて、その恐怖は想像を超えるものがあります。国民の平和と幸せを守るはずなのに、大切な命を無残にも奪ってしまう独裁的リーダーの目的は何なのでしょう？

1日も早く終結し、再び平和が戻ることを心から願います。今月もお読みいただき有難うございました。



「やすらぎ通信」をメールでご覧いただけます。ご希望の方は、アドレスをお知らせください。

編集責任者 渡辺 田鶴子